

日常災害の実態調査

— 住宅における軽度な事故を対象として(2) —

正会員〇 丸田 隆^{*1} 同 直井英雄^{*2} 同 三村由夫^{*3} 同 古瀬 敏^{*4}
同 菊池志郎^{*5} 同 宇野英隆^{*6} 同 遠藤佳宏^{*7}

1. はじめに

前者に引き続き、ここでは事故の詳細について報告する。

2. 調査の概要(2)

事故の種類、けがの種類、事故の発生場所などに着目して、単純集計した結果を図1～図6に示す。相関集計した結果(二要素の組合せ)の一部を図7～図18に示す。

3. 考察

集計結果から次のようなことがいえる。

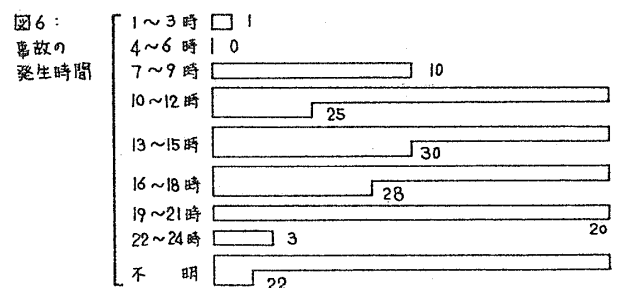
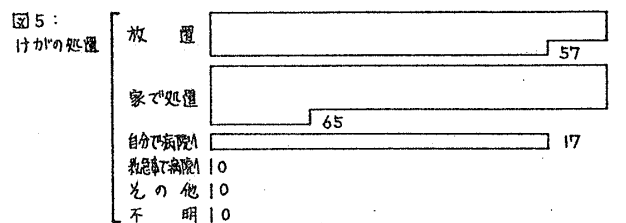
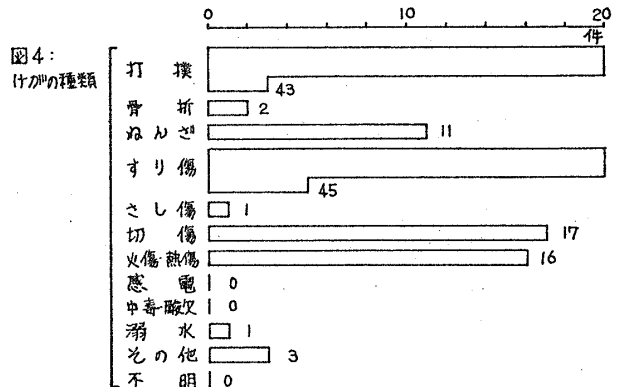
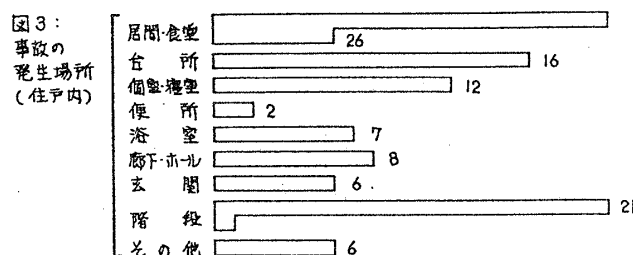
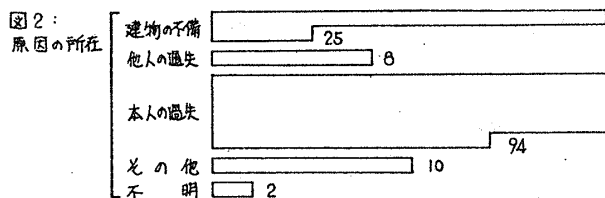
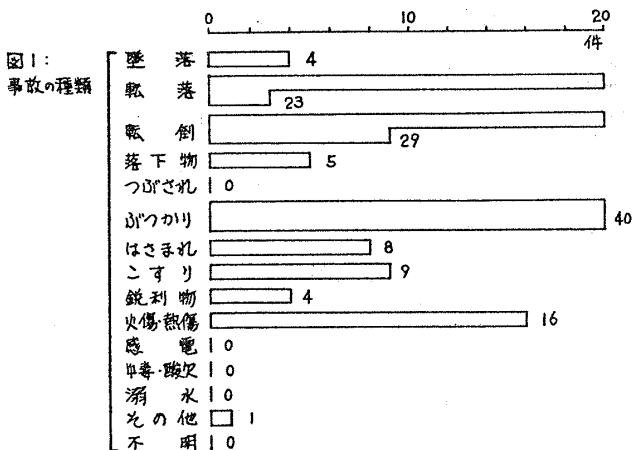
① 事故の種類について — ぶつかり、転倒、転落、やけどが他に比較すると多く、なかでもぶつかりは特に多い。これは、住戸形式、構造、単層住居・複層住居の別、専用・併用の別、持家・借家の別等によらない傾向といえる。床面積との関係では、狭い方に幾分

ぶつかり、転倒の事故が多い。性別では、やけどが女性に多く、年令で見ると、老人の転倒事故が目立つ。

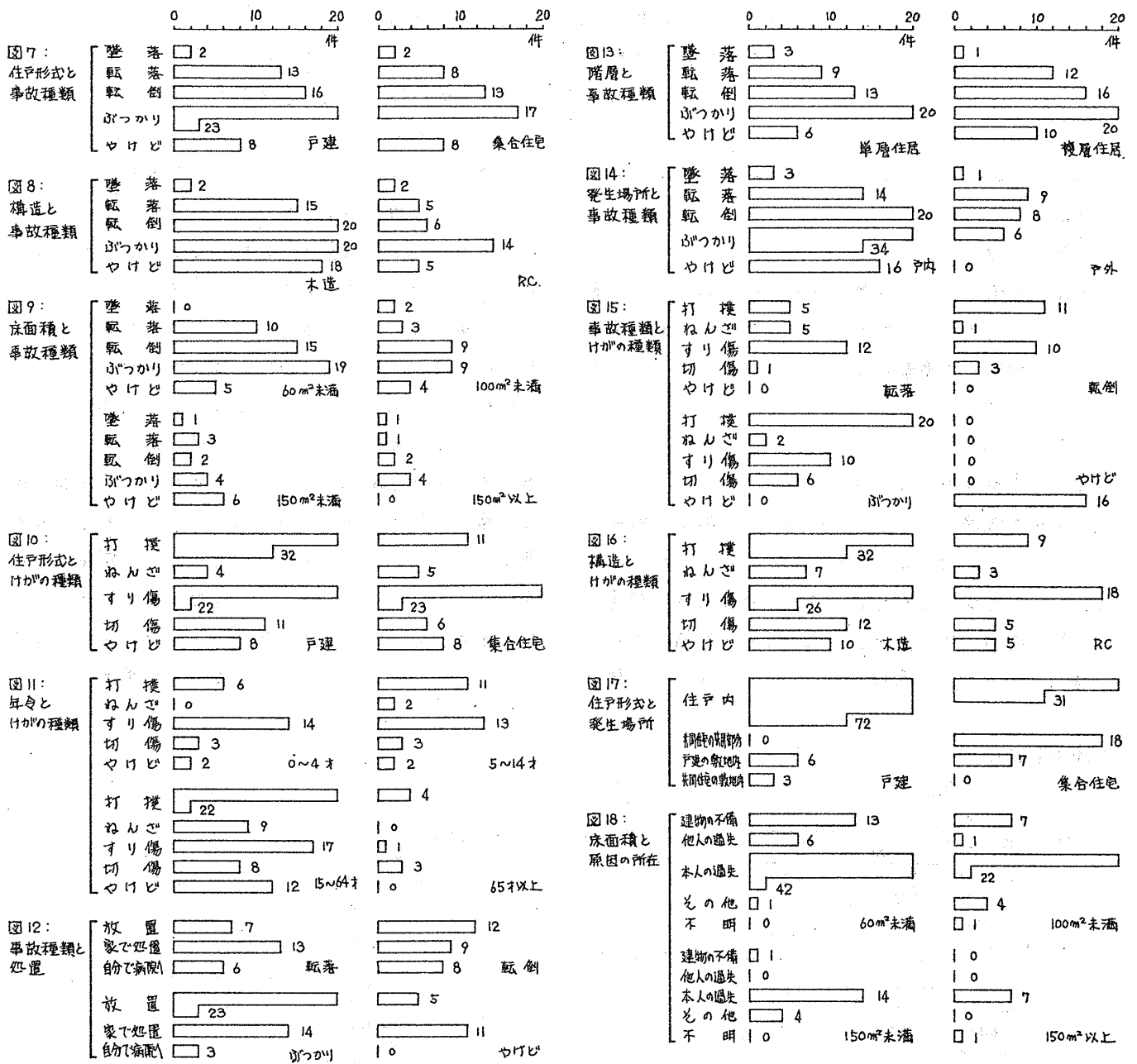
② けがの種類と処置について — 種類では、すり傷、打撲が最も多く、処置は、放置、又は家で処置する程度のもが多い。相関関係では、住戸形式、構造で見ると、集合住宅、RC構造でのすり傷、年令、性別で見ると、15才～64才の、特に女性のやけどが目立つ。事故種類との関係を見ても、転落ではすり傷、ぶつかりでは打撲、転倒ではすり傷、打撲が多い。

③ 事故の発生場所について — 戸内では、居間・食堂、階段、台所での事故が目立つ。さらに個々の事故種類を見ると、居間・食堂ではぶつかり、階段では転落、台所ではやけど、浴室では転倒が多い。戸外では、特に集合住宅における共用部分での女性の事故が目立つ。これは、女性の在宅時間の長さとも関係があると

単純集計結果



相関集計結果



考えられる。

④ 原因の所在について一圧倒的に本人の不注意によるものが多い。建物の不備によるもの約4倍である。これは前回の調査結果(約3倍)よりもやや多い結果である。構造、床面積との関係を見ると、RC造、面積の狭い住居で建物の不備とするものの比率がやや高くなる。

⑤ その他の要因について、一居住年数を見ると、20年未満では、ぶつかりが多く、20年以上では、転倒がやや多い。この傾向は、建物経年数からいえることである。また、古くなる程、なんらかの処置をしなければならぬ事故が多く起きている。事故の発生時刻

については、特筆すべき傾向はみられない。

4. おわりに。

この調査によって、目的とした軽度な日常災害の実態については、かなりくわしく把握できた。この結果、これまで経験的に考えられていた傾向が、必ずしもはっきりしたものではないことなどがわかった。今後は、過去に行なった調査等も含め、さらに分析を加えていく必要がある。

*1 東京理科大学助手 *2 同助教授 工博

*3 建設省建築研究所研究室室長 工博 *4 同研究員

*5 同助手 *6 千葉工業大学教授 工博 *7 同助手